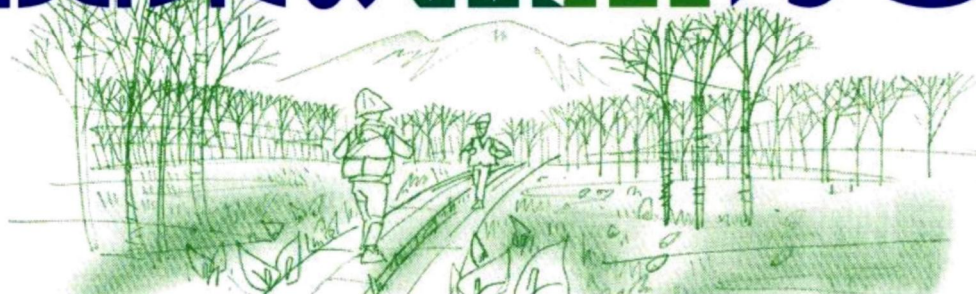


令和8年10月1日

第268号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158
<https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



【写真】収穫の秋、磐梯山を望む（会津森林管理署）

- | | | | |
|-------------------|-------------------------|-----|---|
| ◎ 緑豊かな郷土を目指して | 技術普及課 | ・・・ | 1 |
| ◎ 森林管理を支える国有林林道 | 森林整備課 | ・・・ | 3 |
| ◎ 小笠原の美しい海岸を守るために | 小笠原総合事務所 国有林課 | ・・・ | 5 |
| ◎ 森づくり最前線！ | 南会津支署 伊南森林事務所 森林官 山名 一得 | ・・・ | 7 |

特集 1

緑豊かな郷土を目指して ～各地の植樹祭等の取組～ 技術普及課

森林は、水源のかん養や災害の防止、生物多様性の保全、地球温暖化の防止など、私たちの暮らしを支えるさまざまな役割を担っています。その大切な森林を未来へ引き継ぐため、全国各地で植樹や森林整備を通じた緑化運動が展開されています。

毎年春には、天皇皇后両陛下のご臨席のもと、国土緑化運動の中心的行事である「全国植樹祭」が開催されており、国民一人ひとりが森林や緑の大切さについて理解を深める機会となっています。また、秋には皇族殿下のご臨席のもと、全国植樹祭を開催したことのある都道府県において、「全国育樹祭」が行われ、植えた木を守り育てることの重要性が広く発信されています。今年は、5月17日に愛媛県で第76回全国植樹祭が、11月7・8日に和歌山県で第49回全国育樹祭が開催されます。

また当局の管内では、令和10年（2028年）秋に、神奈川県で第51回全国育樹祭が開催されます！

第61回全国植樹祭
平成22年（2010年）
5月23日 南足柄市

神奈川県
開催

第51回全国育樹祭
令和10年（2028年）秋
南足柄市、小田原市

神奈川県 HP リンク



全国植樹祭、全国育樹祭のほか、各自治体においても植樹祭などの緑化行事が開催され、多くの皆さんが森林づくりや緑化運動に参加しています。



群馬県・山本知事による主催者代表あいさつ



市川平治様に緑化功労者林野庁長官賞の授与

関東森林管理局（前橋市）が所在する群馬県では、森林を守り、育み、活かすことの大切さを発信し、緑豊かな郷土づくりを推進するため、毎年度、県内市町村の持ち回りにより群馬県植樹祭が開催されています。79回目を迎える今年は、6月6日（土）に、高崎市の倉渕水沼公園で開催されました。関東森林管理局も主催者の一員として参画しており、ここでは、当日の様子をご紹介します。

心配された雨も式典開始前には上がり、オープニングアトラクションとして高崎市立倉渕中学校による吹奏楽演奏が披露され、式典が開幕しました。式典では、緑化運動推進標語と緑化運動ポスター原画の受賞者に対する表彰が行われたほか、群馬県緑化功労者への感謝状の贈呈が行われました。

また、関東森林管理局長から、永年にわたり緑化活動に尽力された功績を称え、市川 平治様に、緑化功労者林野庁長官賞が授与されました。





緑の少年団との記念植樹（松村・前局長）

「緑のメッセージ宣言」では、高崎市立倉渕小学校 緑の少年団の代表児童が「この豊かな自然を守るために、自分たちに何ができるか考えていきたいです」とメッセージを発表しました。

最後に、関東森林管理局長が「来年も皆さんの元気な笑顔にお会いすることを楽しみにしています」と閉会の言葉を述べ、式典は盛況のうちに終了しました。

式典後の記念植樹では、倉渕小学校 緑の少年団、倉渕英語村の生徒の皆さんのご協力により、ソメイヨシノ、クルメツツジ、アジサイが植栽されました。来年には美しい花を咲かせることでしょう。

会場内には関係する13団体がブースを設け、それぞれ特色ある展示を行いました。倉渕体育振興会による**モルック**体験や、会場となった倉渕水沼公園に設置されている「くらぶちこども天文台」での太陽観察など、多彩な催しもあり、会場は多くの来場者でにぎわいました。

地元の国有林を管轄する群馬森林管理署もブースを出展し、国有林の取組についてパネル展示を行うとともに、緑の募金への協力を呼びかけました。また、近年のツキノワグマの出没増加を受け、クマの生態や被害防止対策について解説したパネルを展示したところ、多くの来場者が足を止めて熱心に見入っており、関心の高さがうかがえました。

令和9年度の第80回群馬県植樹祭は、太田市で開催される予定です。お近くにお住まいの方は、ぜひ参加ください。



群馬森林管理署のパネル展示

モルック mölkkky とは



フィンランド発祥の木製の用具を使ったスポーツです。地面に並べた12本の木製ピン（スキttl）に向かって木の棒（モルック）を投げ、倒したピンの本数やピンに書かれた数字に応じて得点を重ねます。ちょうど50点に達することを目指して競う、木製用具を使うボウリングのようなスポーツで、近年はレクリエーションやイベントなどでも人気が高まっています。機会がありましたら、ぜひ挑戦してみてください。



（競技のイメージ）

特集
2森林管理を支える国有林林道 ～多様な森林につながる生命線～
森林整備課

林道というと木材を搬出するための道路というイメージが強いかもしれませんが、しかし、国有林の現場で働く職員にとっては、森林整備や治山事業、森林保護、災害対応など、あらゆる業務を支える欠かせないのである基盤であり、まさに森林管理の生命線です。関東森林管理局が管理する1都10県、119万haの国有林には、約5,641km（約2,000路線）の林道が開設されており、多様な森林の管理経営を支えています。

現場へ向かうための唯一の道

森林管理署や森林事務所の業務は、まず現場を確認することから始まります。森林調査や境界確認、治山施設の点検、森林整備事業の監督など、多くの業務は山間部の現場で行われます。現場によっては、最寄りの集落から一般道路を経て林道に入り、さらに1時間以上走行しなければ到達できない現場もあります。

職員は朝、事務所を出発すると、まず林道の状況を確認しながら現場へ向かいます。「昨夜の雨による落石や倒木はないか」「路肩に異常はないか」こうした確認を行いながら、一日の業務が始まります。



日々の維持管理が重要です

地域ごとに異なる林道の役割

国有林林道は、地域の自然条件や森林の管理目的に応じて、その役割や機能が異なります。例えば、群馬県や栃木県の山岳地帯では、首都圏の重要な水源地帯を保全するため、水源林の維持管理を支える路網として活用されています。また、福島県では帰還困難区域における森林整備の再開に向けた様々な取組が進められており、今後、これらを着実に実施するための基盤としても林道は欠かせません。

さらに、富士山周辺や日光地域では、森林の管理経営に加え、自然公園利用や観光との調和にも配慮した対応が求められています。

林道は、利用者の安全確保や森林保全活動を支える重要なインフラとして、多面的な役割を果たしています。



豊かな森林に囲まれた山岳道路

災害対応の最前線

林道の重要性が最も実感されるのは、災害発生時です。大雨や台風の後には、職員が林道を利用して被災箇所の確認を行います。治山施設の被害状況や山腹崩壊の有無を把握し、その結果を踏まえて応急対策や復旧計画の検討を進めます。



ドローンによる被災状況調査

一方で、林道そのものが被災することもあります。路肩の崩壊や土砂の流入によって通行できなくなると、その先にある森林や治山施設へのアクセスが困難となり、被災状況の把握や復旧対応に支障をきたします。

林道は、災害対応を支える重要なインフラである一方、自らの機能維持も欠かせません。このため国有林では、平常時から林道の点検や補修を行い、適切な維持管理に努めています。

森林を未来へつなぐために

戦後造成された人工林の多くが利用期を迎え「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の循環利用が求められています。こうした循環利用を進める上で、骨格となる林道の存在は不可欠です。

当局管内の1都10県に広がる国有林では、地域によって森林の姿も課題も大きく異なります。しかし、多様な森林と人を結び、管理経営を支えているという点で、林道の役割は共通しています。国有林林道は、森林と人をつなぎ、多様な森林を未来へ引き継ぐための生命線といえます。



復旧工事による林道機能の回復



造林地へのアクセスを支える林道



今月の“表紙” 収穫の秋、磐梯山を望む（会津森林管理署）

磐梯山は、^{おおばんだい}大磐梯を主峰とし、^{くしがみね}櫛ヶ峰、^{あかはにやま}赤埴山の三峰からなる^{せいそうかざん}成層火山です。かつては「^{こばんだい}小磐梯」と呼ばれる山も存在していましたが、明治21年（1888年）の大噴火により山体崩壊を起こし、現在の姿となりました。

磐梯山は、南側を「^{おもてばんだい}表磐梯」、北側を「^{うらばんだい}裏磐梯」と呼びます。表磐梯から望む山容は整った姿をしており、「会津富士」と称されていますが、裏磐梯では、一変して山体崩壊の痕跡が残る荒々しい姿を見せています。噴火が生み出した地形や景観は学術的にも貴重であり、平成19年（2007年）には日本の地質百選に選定され、また、平成23年（2011年）には日本ジオパークに認定されています。

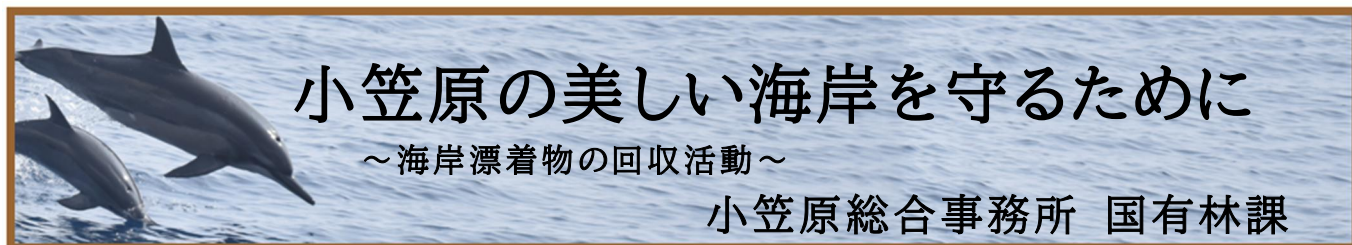
磐梯山周辺には、豊かな湖沼や清流、緑あふれる山々が広がっています。登山道やキャンプ場、ウインタースポーツのコース等も整備されており、四季を通じて多くの人々に親しまれる、福島県を代表する景勝地となっています。



猪苗代湖と表磐梯 “会津富士”



裏磐梯、毘沙門沼からの眺め



一度も大陸と陸続きになったことがない「海洋島」である小笠原諸島は、独自の進化を遂げた固有の動植物が多く生息しており、平成23年（2011年）に世界自然遺産に登録され、年間を通じて多くの観光客が訪れています。

小笠原の魅力の一つは、何ととっても美しい海です。深みのある濃い青色が特徴で、「ボニンブルー」と呼ばれています。ダイビングをはじめ、ドルフィンスイムやホエールウォッチングなど、海をテーマとした観光ツアーも盛んに行われています。



これぞ、ボニンブルー！（ひがしじま東島からの眺め）



回収したさまざまな“海ごみ”

その一方で、小笠原を象徴する美しい海や海岸は、深刻な課題を抱えています。それが、海外や本土から海流に乗って流れ着く「海岸漂着物」（以下「海ごみ」といいます。）です。

漁網や浮きブイなどの漁具をはじめ、ペットボトルやプラスチック製品など、さまざまなごみが海岸に漂着しています。これらは景観を損なうだけでなく、ウミガメや魚類などの海洋生物が誤飲したり、体に絡まったりするなどの被害が懸念されています。

こうした課題に対し、小笠原村ではごみの回収ボックスの設置やクリーンアップ活動など、行政と民間が一体となった取組が行われており、小笠原総合事務所国有林課においても、林野庁が管理する海岸を中心に、海ごみの回収作業を実施しています。

回収作業の対象となる海岸の中には、船で上陸しなければ辿り着けない海岸や無人島も含まれています。そのため、普段は立ち寄る機会が少ない海岸では、他の業務で上陸した際に海ごみを回収するなど、効率的な作業に努めています。

漂着する海ごみは後を絶たず、管理するすべての海岸で十分な回収作業を行うことが難しいのが現状です。それでも、小笠原諸島森林生態系保全センターをはじめ、東京都や環境省など関係機関の協力を得ながら、少しずつ回収作業を進めています。

令和8年（2026年）2月には、東京農業大学ボランティア部の皆さんとともに、母島の2か所の海岸で海ごみの回収作業を行いました。毎年回収を行っている海岸ですが、1年が経過すると、すでに大量の海ごみが漂着していました。

回収したごみは袋詰めした後、母島のごみ集積施設（リレーセンター）へ運搬するため、海岸から道路まで数百メートルの距離を人力で運び上げます。決して楽な作業ではありませんが、学生の皆さんの若い力は大変心強く、当日は2,000kgを超える海ごみを回収することができました。

作業していると、海岸を訪れた方から「いつも浜をきれいにしてくれてありがとう」といった温かい言葉をいただくことがあります。その一言が大きな励みとなり、この活動の意義とやりがいを改めて実感する瞬間でもあります。

海ごみの問題は、今後も小笠原諸島が抱える重要な課題の一つであり続けると考えられます。小笠原の美しい海岸を未来へ引き継いでいくためには、関係機関と連携しながら、海ごみの回収を継続していくことが重要です。

また、小笠原に流れ着く海ごみを減らすためには、発生源となる世界各地の海でごみを減らしていく取組も欠かせません。小笠原での活動を通じて海ごみ問題の現状を広く発信し、一人でも多くの方にこの問題について考えていただくことも、私たちにできる大切な取組の一つだと考えています。



回収ゴミを運び上げる
学生ボランティアの皆さん



海ごみ回収作業後の父島・初寝浦の浜辺

GREEN×EXPO 2027 ～幸せを創る明日の風景～

令和9年（2027年）3月19日（金）から9月26日（日）まで、GREEN×EXPO 2027が神奈川県横浜市で開催されます。日本における最上位クラス（A1）の開催は1990年大阪花の万博以来、37年ぶりです。1,000万株の花と緑が世界中から集結して「幸せを創る明日の風景」を創り出し、様々な展示や体験を通じて、グリーン社会や自然との共生について考えるきっかけをもたらします。

詳細はこちら ▶▶ <https://expo2027yokohama.or.jp>

HP リンク▶▶

チケットサイトはこちら ▶▶ <https://ticket.expo2027yokohama.or.jp/>



メインガーデンイメージ（2026年3月現在）

画像提供：GREEN×EXPO 協会



©Expo 2027

連載
シリーズ

森づくり最前線！

南会津支署 伊南森林事務所 森林官 山名 一得

事務所の庭先から望む
尾白山1398m

事務所の近くにある久川城跡は、地元の領主であった河原田氏が伊達政宗の侵攻を堪え抜いた歴史の舞台です。中世の城であるため、天守閣や石垣こそありませんが、今なお、壮大な遺構を見ることができます。

この地域はかつて、苧麻（からむし）や麻の生産、さらには林産物の収入によって栄え、現代の感覚から抱く「山奥」という印象からは想像できないほどの経済力があつたようです。



※ 国有林へ続く森林鉄道の軌道跡

事務所のある古町地区のお祭り

さて管内の国有林野事業に目を向けると、管轄区域の大半が天然林、かつ「奥会津森林生態系保護地域（保全利用地区）」や「緑の回廊」に設定されており、原則として伐採は制限されています。しかし、かつての歴史が示すように、この地域の森林資源が持つポテンシャルは非常に大きなものがあります。

私自身、この地域に残る原生的な森林が大好きで、その保全のための規制にも賛成ですが、そこに暮らすヒトとその森林資源の利用もまた生態系を構成する重要な要素であり、将来にわたって継承されるべきものだとも考えています。そのため、施業計画の編成や収穫調査においては、人工林に混交した広葉樹の活用なども意識しながら、業務に取り組んでいます。

私は、今回で二度目の南会津支署勤務となりますが、わずか数年の間にも二ホンジカの増加を実感しています。森林事務所で共に働く職員の方が現役の猟師であるという縁もあって、私も狩猟を始めました。これからも公私ともに山を駆けずり回る所存です。



猟銃を構える筆者